

現場に始まり  
現場に終わる  
**カ**  
**現場**②



ハセガワウェスティ  
代表取締役社長  
長谷川卓史氏

前号は「童話をもとにした storyのあるパーティ」についてお話ししました。

目にして実現しました。そのような事情から結婚したことを報告するのではなく、入籍して2年目を迎えられた報告と、これからまた夫婦として歩み続けていくことにして実現しました。

**入籍2年目、「記念日」を鍵に披露宴アレンジ**

王子様と出会うというものです。実現するために、司会者が衣装を身につけてストーリーテラーとして物語を進行していくスタイルです。

の意味、大切さを表現するために、テーマも「記念日」としたのです。結婚式の日取りは、ちょうど2年前の入籍日と同じ日、5月30日を選びました。そして2年目は「結婚式」と呼ばれていることから、綿をイメージした料理を提供したり、両親や列席者たちの爽りを願ひ苺やナッツをアレンジしました。

**入籍2年目「結婚式」の新郎新婦**  
今回は「記念日」をキーワードとした結婚式の実例をお話します。結婚式を挙げられたのは大手企業に勤める30歳代のご夫婦でした。実はこのご夫婦、2年前に入籍したのですが、その時、結婚式は挙げていなかったのです。

しかし、どちらともなく結婚式を挙げることは、これから歩む人生のなかで大切であると思います。入籍2年目には5月30日の日付けを刻みました。さらに5と30に因んだプレゼントを用意するなど、記念日を核としたコーディネートを実施したの

です。また新郎新婦の両親の結婚記念日も、自分たちの結婚式に重ね合わせた演出を取り入れるなど、徹底的に「記念日」にこだわったコーディネートを実現させたのです。

気がつくこと列席者の心にも…  
気がつくこと列席者も心のなかで「私たち夫婦の記念日は…」、「両親の記念日って…」と、思ったことでしょう。

そして改めて「記念日」を通じて、人と人の心がつながり、人として相手を思う優しい心を抱くことができると、このたびの司会を通じて実感しました。

最近「記念日ビジネス」の言葉が流行しています。記念日がビジネス的に言われていますが、記念日は人工的に創られるものではないことを、「記念日」にこだわった結婚式を通じて学びました。

**プロフィール**  
(はせがわ たかし)  
1963年10月16日、総合家具販売会社の3代目として千葉に生まれる。中央大学商学部卒業後、経営の道を歩み始める。30歳を越え婚礼司会者に転身。2000年起業し、現在国内最大手、年間1万組を超える企業に成長した。